

「海洋科学生からみる日本の水産業、魚食」
大分県立津久見高等学校海洋科学学校
海洋科3年 平嶋将和

1. 私たちの学校

学校のある臼杵市は、豊後水道に面した、臼杵湾の最奥部に位置し、山と海に囲まれた風光明媚なところです。現在も、武家屋敷や町屋、寺院などが立ち並んでおり、江戸から昭和初期の雰囲気、色濃く残っています。農林水産業をはじめ、造船業、醸造業が栄え、県南の中心都市としての役割を担っております。

我が校は、昭和19年に県立臼杵農水産学校として発足してから昭和28年に県立水産高等学校に改称後、40年間の続いた校名が、生徒減少期を迎えた平成5年に県立海洋科学高等学校、平成24年に市内商業高校とともに隣市にある県立津久見高等学校に統合され、その分校（海洋科学学校）として再出発しました。

各学年1クラス、全校生徒は113名が在籍し、2年次より実習船による遠洋航海実習を行い、船舶職員育成を目標とする船舶技術コースと水産物の生産から販売までを行う6次産業化に対応できる人材育成を目標とする生産技術コースに分かれて学習します。

2. 水産業に対する思い

地元の進路先として水産業を考えたとき、大分県のブリ養殖が全国第3位ということもあり、養殖業者は地元には2社、また隣市の津久見市に1社、さらに県南には生産者組合をはじめ多くの個人企業があることから、毎年卒業生が就職しており大きな目標になっています。一方漁業は高齢化が進み、若者の採用があるように言われている中、わずかな採用情報がある程度です。また水産加工及び製造

業は、県南部に大きな水産加工団地があるものの通勤が困難なこともあり、地元の鮮魚店などの小売業の求人が出ることを期待しています。

卒業後は、地元就職を希望する傾向が強いものの、地元を離れて就職する人も少なくありません。

このような状況から、水産業に対して元気のある産業としての印象を持っていません。また自然を相手にする水産業は、魅力があると同時にリスクも高く、一般的には悪い情報の方が広く伝わっているようにも思われます。

しかし、私は魚釣りが好きで調理に興味があったため、高校時代に一番学びたかったことが水産分野でした。

大分県の海岸線は、約772kmで全国13番目の長さがあり、関あじ、関さばで有名な豊後水道を境に県北部は瀬戸内の砂地で遠浅な豊前海が広がり、県南部は深く切り込んだリアス式海岸が太平洋につながっています。海を身近に感じられた環境も私を水産業へと後押ししてくれたと思います。

学校のある臼杵市はフグ料理が有名で、また生産高が全国第2位となるタチウオの主要水揚げ地でもあります。平成17年に農業の盛んな野津町と合併して、農林水産業全体の振興、6次産業化の取組みが進められ、学校でもこれに応じた授業や実習を受けています。

県内唯一の水産系高等学校を希望し、ここで学んだことを活かし、将来役立つ人材になりたいと考えるとともに学生時代に県内水産業が元気になるような取組みにも参加したいと思い、マリンスクールに取り組んでいます。

3. 水産業の広報を通じた地域振興への取組み

マリンスクールとは、地産地消、魚食普及などをテーマに高校生が水産業の広報を行うこと通じて地域振興につなげる活動です。平

成23年度から取組みを開始し（平成23年度41回実施）、水産業に関わる団体や部署と連携して開催しています。

＜平成24年度 マリンスクール実施＞

回	実施内容	対象	連携
1	体験乗船	小・中学生	
2	食品製造	農業クラブ	県漁協、県農協
3	ロープワーク	小学生	
4	地域イベント	臼杵市民	県商工労働部
5	ロープワーク	小学生	
6	食品製造	小学生	
7	食品製造	小学生	
8	食品製造	保護者	
9	食品製造	小学生	
10	体験乗船	小・中学生	
11	地域イベント	臼杵市民	県商工労働部
12	地域イベント	津久見市民	
13	水産教室	市内漁業者	県振興局
14	体験乗船	中学生	
15	体験乗船	小学生	
16	ボランティア活動	小学生	県ボランティア協会
17	体験乗船	中学生	
18	体験乗船	中学生	
19	水産業見学	中学生	県振興局
20	水産業紹介	中学生	
21	地域イベント	臼杵市民	
22	マリンスポーツ	小・中学生	
23	体験乗船	佐伯市民	海事協議会
24	水産業紹介	中学生	
25	小型実習船	中学生	
26	地域イベント	臼杵市民	県商工労働部
27	地域イベント	大分市民	県漁協
28	ロープワーク	小学生	
29	地域イベント	臼杵市民	県商工労働部
30	地域イベント	臼杵市民	県漁協、県振興局、市
31	ロープワーク	小学生	
32	国際交流	韓国交流団	県企画振興部
33	学校交流	高校生	

34	地域イベント	臼杵市民	県漁協、県振興局、市
35	水産業紹介	中学生	県振興局
36	地域イベント	臼杵市民	県漁協、県振興局、市
37	他県乗船	中学生	
38	食品製造	臼杵市民	
39	食品製造	小学生	
40	食品製造	小学生	
41	地域イベント	臼杵市民	県漁協、県振興局、市
42	体験乗船	小・中学生	
43	即売会	県民	県漁協、県農林水産部
44	地域イベント	大分市民	県産業教育振興会
45	地域イベント	臼杵市民	県漁協、県振興局、市
46	小型実習船	中学生	
47	学校給食	小学生	県振興局、臼杵市
48	地域イベント	臼杵市民	県漁協、県振興局、市
49	食品製造	小学生	
50	地域イベント	臼杵市民	県漁協、県振興局、市
51	地域イベント	県民	県商工労働部
52	地域イベント	臼杵市民	臼杵市
53	地域イベント	臼杵市民	県漁協、県振興局、市
54	地域イベント	臼杵市民	県漁協、県振興局、市
55	地域イベント	臼杵市民	県漁協、県振興局、市
56	地域イベント	臼杵市民	県漁協、県振興局、市
57	料理教室	本校生	県漁協
58	地域イベント	臼杵市民	県漁協、県振興局、市
59	地域イベント	臼杵市民	県漁協、県振興局、市
60	食品製造	佐伯市民	
61	地域イベント	臼杵市民	県漁協、県振興局、市
62	料理教室	臼杵市民	臼杵市
63	地域イベント	臼杵市民	県漁協、県振興局、市
64	地域イベント	県民	県商工労働部
65	地域イベント	臼杵市民	県漁協、県振興局、市
66	ボランティア活動	県民	県漁協、県振興局、市
67	即売会	県民	県漁協
68	即売会	県民	
69	地域イベント	本校生	県漁協
70	ロープワーク	小学生	

この取組みでは、学校で学んだことを一般

に公開を通じて水産業を広く理解していただくことを目標としております。

マリンスクールの代表的な取組みとして、市内商店街で毎月第1土曜日に開催される幟市（のぼりいち）に参加し、実習船でのマグロはえ縄漁業紹介パネルや巨大マグロオブジェの展示（画像1）、臼杵湾で釣り上げた魚を使ったミニ水族館展示（画像2）やタッチパネルの設置（画像3）、ロープワーク技術を応用した組み紐ストラップづくり体験、新たなブランドとして県が売り込み中のカボスぶりの解体ショー（画像4）と試食会、地元タチウオを用いた試作品の試食会（画像5）などを実施して、毎回多くの方々に来場いただいております。この取組みは高い評価を受け、大分県街なかにぎわいプラン推進事業の優秀賞を平成23、24年に連続受賞しました（画像6）。



画像 1



画像 2



画像 3



画像 4



画像 5



画像 6

また大分県漁業協同組合臼杵支店魚市場で毎週土曜日の早朝に開催される『うすき海鮮朝市』では、お客様がお買い上げされた魚の無料調理サービスに、生徒が参加して実習成果を発揮しています。私は人前で魚を調理す

ることで度胸がつけました。



＜海鮮朝市での調理サービスの様子＞

小学校で行う魚の調理教室では、地元産タチウオを使ってかまぼこづくりを行い、地産地消とともに小学生の地元産業としての水産業への理解を促しています。



＜小学校でのお魚調理教室の様子＞

小学生に魚の調理指導する生徒の中には高校入学時に魚を触ることができない人もいました。1年次から魚の調理練習と試食を繰り返し、技術と美味しさを学びました。魚を食べることが嫌いな人にその理由を聞いたところ、自宅の食卓に魚が上らないということでした。親の魚嫌いや調理に対する苦手意識が魚食低下に影響していると思いました。製造実習後の試食では、自宅で魚を食べないと答えた人が毎回一番よく食べていました。この

経験から小学生にも魚の美味しさを知ってもらえるように楽しく真剣に参加できるように計画から準備までをみんなで行いました。小学校でのお魚調理教室で驚いたことがあります。一つは小学生の好奇心です。私たちがさばいたタチウオの内臓に興味深く、楽しそうにみんなで触っていました。小学生は初めて見たそうです。また小学生の積極性には私もこんな頃があったのかと、初心を振り返るきっかけにもなりました。この活動を通じて小学生は興味・関心が高まり、私たちは「わかる、できる、教える」ことで専門的知識・技術を定着させることができました。

また地元産業を理解してもらうために小型実習船で釣り体験や養殖場見学に行ったり（画像7）、地域イベントにも積極的に参加して高校生パワーで盛り上げました（画像8）。



画像7



画像8

昨年の取組みで一番嬉しかったことは、実習で製造する練り製品が、初めて給食に提供されたことです。私たちのレシピで地元の水産業者が加工したものを小学生と給食で一緒に食べました。即売会では大好評、自慢の製品ですが、どんな感想が出るのかドキドキしました。そのときの小学生の「美味しい」の声と笑顔は忘れられません。

これからも給食で練り製品を食べてもらった小・中学生が、高校に入学することを想像し、さらに練り製品の品質向上につながると考えてワクワクしています。



<学校給食に提供されたマリンロック>

4. 私たちができること

マリンスクールを通じた地域貢献活動で、地元水産業をはじめ地域が元気になってもらいたいと考えます。マリンスクールを含む様々な行事に取り組むことで、職業高校の教育内容も充実します。また地域が元気になることが県内にも波及し、県内の発展は、職業高校を卒業する者に明るい未来をもたらし、そこに夢見る小、中学生が職業高校を目指すことで、さらに職業高校の教育が充実するという理想を掲げ、私たちが発信源となり、元気のある水産業を創るために頑張ります。

水産・海洋高校に学ぶ皆さまへ

東日本大震災が発生してから二年が経ちましたが、依然として厳しい状況下で生活する方々のことを耳にして心が痛みます。

海に学び、海に生きる高校生として、自然への畏敬の念と素晴らしい魅力を理解し、これからの地域を担い、水産業・海運業の素晴らしさを多くの方々に伝えられるとともに、厳しい状況を乗り越えていける人になるために充実した毎日を送りましょう。



<東日本大震災の義援金募金活動>